

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(1階ユニット)

事業所番号	2793100146		
法人名	株式会社 ジャパンメディケアネット		
事業所名	グループホームつながり城北		
所在地	大阪市旭区赤川1丁目3番24号		
自己評価作成日	令和元年11月27日	評価結果市町村受理日	令和2年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和元年12月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2018年1月に開設した27床(3ユニット)新しいグループホームになります。本年は、ご入居者様からのご要望に応え、季節のさまざまな行事や地域のお祭り等参加させていただきました。その他、地域とのつながり作りをいれて、ホーム横の敷地で地域住民の方々に参加頂ける『つながり地域夏祭り』を開催しました。その後も町会からのオファーを受け、商店街の地域祭りにブースでお手伝いさせて頂いたり、グループホームの連絡会でもブースでゲームコーナーのお手伝いさせて頂いたりしました。11月は協力医療機関の日帰りバス旅行に参加し、入居者様の知人の方やご家族の方にもご参加いただき、楽しんで頂きました。次年度も引き続き、入居者様とご家族様、地域の方への「つながり」を大切に支援して参りたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成30年1月に開設された当事業所は、開設前から自治会の協力があり、地域行事(ふれあい祭り・餅つき大会・地域ワイワイ祭り)への参加や、様々なボランティア(ドッグセラピー・日本舞踊・フラワーアレンジメント・食事レクレーションの講師等)を受け入れている。事業所主催の「つながり地域夏まつり」時には小学校から TENT を借り、地域の人や小学校の生徒の参加があり、交流の輪が広がっている。「日々の生活を楽しむ」をコンセプトに、多彩なレクレーションを積極的に催し、隣接の敷地でプロレスイベントも開催している。1・2・3階各々のユニットで独自性を持ち、リーダーが主体となって、日々の生活のあり方や行事・レクレーションを職員と共に検討しながら、利用者夫々の有する能力を引き出したケアに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「入居者様・家族様・職員や地域住民の方々の尊厳やつながりを大切にする」という理念に基づき、分かりやすい場所に掲示するとともに、各フロアの理念を掲げ共有し実践につなげている。	「慣れ親しんだ場所で、ひとり一人が、その人らしさを発揮できるよう支援します。豊かな人間関係を保ち支え暮らしていけるよう(入居者とのつながり、家族とのつながり、地域とのつながり)を大切にします。」の事業所の理念と、各ユニットで決めた「尊厳」「笑顔」「役割」を大切にしながらの方針を目につく所に掲示し、毎月の職員全体会議で確認し合い、実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の行事(餅つき大会 ふれあい祭り等)に積極的に参加し、地域の一人として交流を図っている。本年は、隣の敷地を使ってホーム主体で「つながり地域夏祭り」を開催した。その後も町会からお声掛けがあり、お祭りのお手伝いを行っている。	自治会に加入し、地域行事(餅つき大会・ふれあい祭り)への参加や、近隣の幼稚園・保育園児との交流がある。ボランティア(フラワーアレンジメント・楽器演奏・ドッグセラピー、食事レクレーションの手作りおやつ講師等)を受け入れている。ヘルパースクールの生徒の体験学習を受け入れ、卒業生が事業所に入職した例がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	旭区のグループホーム連絡会にて地域包括支援センター職員 役所職員を交え交流し、地域の行事に参加するなどしている。今後は集会場を利用し認知症講座など行っていきたい。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を開催し、入居者・家族・民生委員・町会長・包括支援センター・区職員で構成しホームでの活動報告・サービスに対する意見など情報共有している。	偶数月の第3木曜日を定例開催日とし、構成メンバー参加の下で運営推進会議を開催している。会議では、事業所の活動内容や事故報告を行い、参加者から要望・助言を貰っている。地域の代表者や民生委員の参加があるが、家族の参加が無く、参加の要請と意見収集の方法を模索中である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議やグループホーム連絡会で包括支援センター職員や生活支援課職員と密に連絡をとり、連携し協力関係を築いている。	事業所開設(平成30年1月)前後から区と密に連携を取り合い、主に区の保険福祉課や市の介護保険課から、面談や電話でアドバイスや指導を受けている。公的扶助受給者の更新手続き及び書類提出で関わり、区のケースワーカーの訪問がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除マニュアルと身体拘束排除に関する指針を作成し、年2回の研修などで職員に周知している。3か月毎に「身体拘束廃止・予防に関する委員会」を開催している。	身体拘束適正化の指針を整備し、年2回の研修、3ヶ月毎の適正化委員会の勉強会で、職員は身体拘束についての内容を理解している。玄関・各フロアの出入り口は安全上施錠しているが、利用者の希望に応じて随時外気浴・日光浴・散歩に出かけ、閉塞感の解消に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に虐待が見過ごされることがないように入居者の様子を確認し注意を払っている。職員のストレスなどにも注意いつでも話できるよう心掛けている。今後は職員一人一人の面談をする予定である。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、日常生活自立支援事業(安心さぽーと)の活用や成年後見制度、市民成年後見制度を活用している。集会場を借りて職員・地域の方々へ向け成年後見制度についての勉強会を行った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書・契約書を用いて丁寧に説明している。不安や疑問をもたれた時は、詳しく説明する様、心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に現状の報告を随時行っている。玄関に意見箱を設置している。その他、運営推進会議で意見交換して運営に反映させている。 本年より、各フロアごとのホーム便りを発行し活動の理解促進、意見、要望が聞けるよう取り組んでいる。	ほとんどの利用者が意見や要望の表出が出来て、食べたい物や買い物に出かけたい等の要望に応えている。家族の訪問は24人中3~4人で、利用者の状況の報告や意見の傾聴が出来にくいのが、毎月の便りに日常写真や生活ぶりを掲載して伝えている。家族から、タンスや福祉用靴の購入の相談を受けた事例がある。	利用者・家族・職員との関係性は事業所の最も重要としている「つながり」であり、豊かな人間関係を保ちながら支援を推し進める為、柱となる家族との交流を深化させる事を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議を設け、代表者も参加し、職員の意見や提案に限らず、疑問不安など様々なことを話し合う機会を設けている。管理者は、毎日の申し送りやフロアの会議に参加し意見交換を行っている。	月1回の全体会議で職員の意見を聴く機会を設け、日頃の関わりの中で、職員はリーダーに提案や気づきを伝え、即解決出来る場合は改善につなげ、勘案事項は、フロア会議で検討している。職員から、献立の工夫やレクリエーションについての提案等がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と連絡や相談等連絡をとり、職員の個々の実績など報告し把握に努めている。全体会議などで、各自が向上心をもってもらえるような、勉強会の提案やレクリエーションの提案など協力し努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の案内を行い、研修を受ける機会の確保しており参加も増えてきている。その他、法人グループ内での研修や介護スクールと連携をとり、参加の呼びかけを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の事業所と交流の機会を確保するとともに、旭区グループホーム連絡会を3か月に1回行っており、参加している。その他、法人グループ内の勉強会交流も定期的に行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者に面談を行い、本人・家族に詳しくグループホームへの理解をしていただき、不安が出来るだけないように努め、アセスメントを行うことで要望など確認するよう努力しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来るだけ家族との面談の機会を心がけ、意見や要望を拝聴できるよう対処している。電話での相談なども随時行っており、関係を深めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の話を伺い、多職種からの意見も参考にした対応を心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で役割をもつていただき、個々の能力に応じ、一緒におやつを作ったり、洗い物や掃除など職員と共同で行ったり、食事を一緒にとるなどホームの一員であることを実感してもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設の行事や日帰りバス旅行に出来る限り参加していただけるように、日程を調整し本人と家族が楽しんで過ごしてもらえるよう呼びかけしてふれあいを大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の要望に出来る限りお応えし、生まれ故郷にスタッフと馴染みの場所へお出かけするなど個別援助させて戴いている。	近隣から入居した利用者が多く、散歩時に地域の人と挨拶を交わしたり、以前飲食店を営んでいた利用者が、馴染みのお客さんと偶然遭遇して会話を交わした事もある。利用者のかつての知人や家族の訪問がある。墓参りや馴染みの理・美容院へは家族が同行している。ふる里(奈良)へ出かけたいとの要望に沿って車で出かけ、希望が叶って感激された例もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が孤立しないように職員が間に入りレクリエーション(カラオケ・外出レク・外食レク)を通じ利用者同士のふれあいの場を提供している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、必要に応じて電話相談や支援に努めている。他サービス利用の希望時などは、情報提供させてもらいフォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に初回アセスメントをとり、本人の暮らしに対しての要望等、把握に努めている。困難な場合は、今までの生活歴や家族から情報を得て、出来る限り本人の望む暮らしができるよう支援している。	日々のケアの中で利用者と話しやすい関係性を築きながら、個別でリラックスできる散歩時や入浴時に、利用者の思いや意向を聞いている。又、今迄の生活歴や趣味を家族から聞き、カラオケが得意な人にはレクリエーションに取り入れて楽しんで貰っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント用紙を用い、本人及び家族に十分に聞き取りを行い把握に努めている。必要に応じて在宅時のサービス関係者や介護支援専門員に情報提供を依頼している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りで、本人の状態を把握し、全員が確認できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各ユニットフロアで会議を行い、必要に応じて家族、関係者とも話し合い、意見を取り入れ計画を作成している。	毎月のカンファレンス、3ヶ月毎のモニタリング、6ヶ月毎のアセスメントを行い、事業所日誌・往診記録・訪問看護師ノートを参考に、短期(3か月)・長期(6ヶ月)の、利用者の現状に即した計画作成を行っている。計画の内容説明と同意の記名・捺印は、利用者本人や訪問した家族に貰っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を介護記録を活用し、介護経過に残し、フロア会議などで情報共有しモニタリングを行い計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族のニーズに出来る限り対応しています。例えば、外食を希望している方がいる場合、職員が付き添い外食する等、ホームのサービスに捉われない支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの場所への散歩や買い物、地域行事の参加など、楽しみのある暮らしを提供できるよう心掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療を受診するにあたり、本人及び家族等から情報提供していただき、納得が得られたかかりつけ医の関係を築くよう心掛けています。	従来のかかりつけ医を受診している利用者は2名で、他の人は協力医院の内科(月2回)の往診を受けている。歯科(週1回)の往診は希望者が受け、治療はその都度状態に応じて行っている。専門医(眼科・泌尿器科)へは家族が同行し、困難時は事業所が支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師とは密に連絡をとり、日常の情報や気づきなど、申し送りするようにしている。個々の入居者が適切に看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、地域医療連携室に連絡を密にとり、情報共有をしている。ご家族様への連絡も随時行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化する前に、本人、家族、医師、看護師、職員を交え本人の思いを考慮しながら、話し合いの場を設けている。	入居時に「重度化した場合における対応・看取り介護に係る指針(対応や看取り介護の考え方・基本姿勢・体制を明記している)」で利用者・家族に説明し、同意書を交わしている。使用者の身体状態の変化時は、主治医と事業所から説明し、「看取り介護についての同意書」を示して同意を得る体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時に備え、マニュアルを完備し、看護師を講師に勉強会を行っている。今後も定期的実施する。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を消防署職員立ち合いのもと、実施している。今後は地域住民へ訓練をお知らせするとともに参加への呼びかけも行っている。	日中と夜間想定をした年2回(内1回は消防署指導)の防災訓練を実施している。緊急連絡網・自動火災通報装置・必要最低限の備蓄品(水・カンパン・菓子・ランタン)を整備している。地域の協力を呼びかけているが、その確約の取り付けや、備蓄品の見直しを検討中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人の理念を念頭に置き、日々丁寧な対応をするように指導している。 プライバシー保護のマニュアルを整備し、いつでも閲覧できるようにしている。	事業所理念にある「豊かな人間関係を保ち支える」の具現化に向けて、利用者の人格を尊重し、言葉かけや接する姿勢を意識しながらケアしている。入浴・排泄時のドアの開閉の配慮や、入室時のノック・声かけを徹底し、プライバシーを損ねないケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	まず寄り添い聞くことを大切にして職員の考えでなく利用者から自己決定できるようにしていただいている。例えば、おやつレクでは自己決定が出来るようにトッピングなどを選択できるような工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムを大切にし、その人らしいペースで生活を送っていただけるよう、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回、訪問理美容があり、必要に応じて本人から、カット・カラー・パーマ・顔そりなど、ご要望をお伺いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえやおぼん拭き、洗い物などお手伝い頂いている。その他、おやつと一緒に作るレク「つながりクッキング」を開催し楽しみながら、お手伝い頂いている。	献立作成と食材調達は業者に依頼し、調理は職員が交代で行っている。利用者と職員と一緒にテーブルを囲んで同じ食事を摂っている。2ヶ月に1回は好みを取り入れた食事レクレーションを楽しみ、利用者は出来る範囲で下準備・配膳・下膳・洗い物を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	当ホームは食材業者に委託し、管理栄養士のもと、栄養バランス、量など個々の状態に応じて随時対応している。(おかゆ、ミキサー、刻み食、トロミ等)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとり個々の状態に応じた口腔ケアを行っている。毎週の訪問歯科による衛生管理、指導も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の時間やパターンがわかりやすいように排泄チェック表を設け、排泄パターンを把握しやすいようにしている。チェック表をもとに職員が話し合い、トイレの声掛けをする等している。	布パンツ・オムツ・パッド等、使用状態は利用者様々だが、日中は2名以外は、排泄チェック表や水分補給・排泄パターンを把握して、トイレでの自然排泄の支援を行っている。夜間は3時間毎に見回り、オムツ・パッド交換や声かけ等、利用者個々に応じて対応しているが、安眠重視を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来る限り、食物繊維の豊富である飲食物や1日の水分量にも気をつけるようにしている。その他、管理栄養士に相談する等している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、入浴前にバイタル測定を行い、体調がすぐれない時は他の日に振り替える等柔軟に対応している。入浴剤の種類を多数取り揃えており、入浴を楽しんで頂いている。	入浴は週2回を基本とし、午前・午後の時間帯は利用者の希望に応じている。入浴剤を使用して変化を楽しみ、相性の合う職員が入浴を支援し、浴槽の湯を一人ずつ交換して、快適で清潔な入浴支援を行っている。入浴時は利用者の身体状態を把握する好機となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣にあわせて、安眠や休息ができるように支援している。共有フロアにはゆったりと座れるソファを備え付けており、休息され過ごされている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については処方時、変更時など薬局の薬剤師や訪問看護師に相談している。職員にはわかりやすいように、ファイリングしていつでも見れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時のアセスメントで生活歴や嗜好品の把握に努め、日常生活の中で、生活歴や嗜好品など会話の中で聞くよう心掛けている。希望があればスーパーで買い物され楽しまれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の散歩は積極的に散歩への声掛けをさせて頂き、希望に応じていくようにしている。普段行くことができない場所についても、ご希望に応じて企画を挙げてでかけるよう支援している。	日常の外出は、事業所前の公園やスーパーの買い物に出かけている。近隣の神社への初詣や、城北公園の桜・菖蒲・紅葉の花見に出かけたり、利用者の要望に応じて、車で梅田の空中庭園や万博公園へ出かけている。協力医療機関主催のバス旅行には家族も参加している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金をもつことで安心される方もいらっしゃいますので、出来る限り本人様にお金を所持していただいている。近隣のスーパーや100均でお買い物されるなど楽しまれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば、ホームからお電話して頂いている。お手紙のやりとりについても、支援させていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は季節感を感じれる飾り付けを利用者と一緒に作っている。	リビング兼食堂・トイレ・廊下の共有部分は、換気や臭気に留意している。リビング兼食堂は広くて採光も良く、掃除が行き届いている。利用者と職員と一緒に創った季節の手作り作品、行事・日常写真、習字を壁面に飾り、個別で寛げるソファを配置して、温かく過ごしやすい環境を整えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中でも気を配り、職員が間に入り、利用者同士が穏やかに過ごせるように配慮している。リビングにソファを設置しており、テレビをみたり、横になれりして過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室では入居時に、本人や家族と相談し馴染みの物や家具などご持参頂き、入居後も随時相談をしながら、本人の意向に添えるよう配慮させていただいている。	各居室ドアに利用者の名前を大きく表示し、利用者は馴染みのタンス・小物・家族写真を持ち込んでいる。ベッド・洗面台・エアコン・カーテンが設置され、高さのある家具には転倒防止策を施している。居室内の動線も考慮し、安全で過ごしやすい居室となるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動の動線について十分に職員間で話し合い、家具の配置等に配慮し安全に生活ができるように心がけている。		